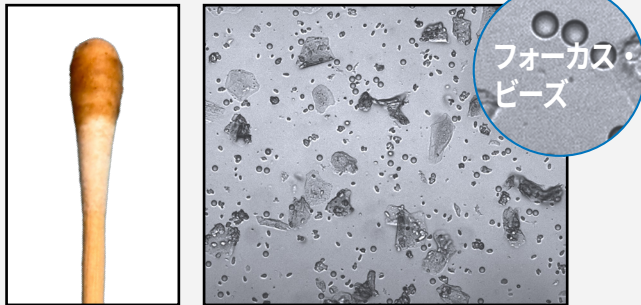


IDEXX インビュー Dx™ 外耳細胞診 の画像と結果解釈

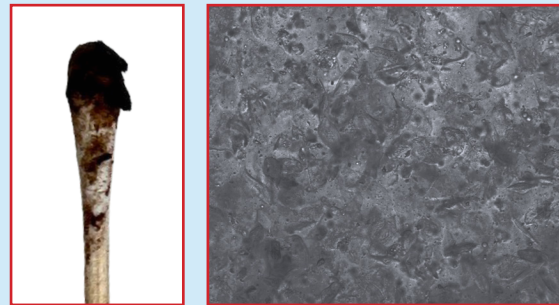
画像に適切な検体準備手順が反映されていることを確認してください。

適切な検体量



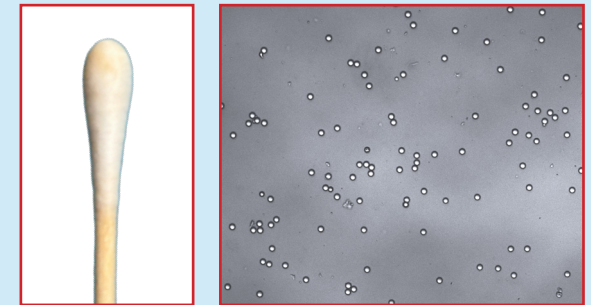
適切な検体量を使用することで、信頼性の高い結果と画像が得られます。

検体が多すぎる



集塊によって視野が過密状態となり、結果が過小評価される可能性があります。

検体が少なすぎる

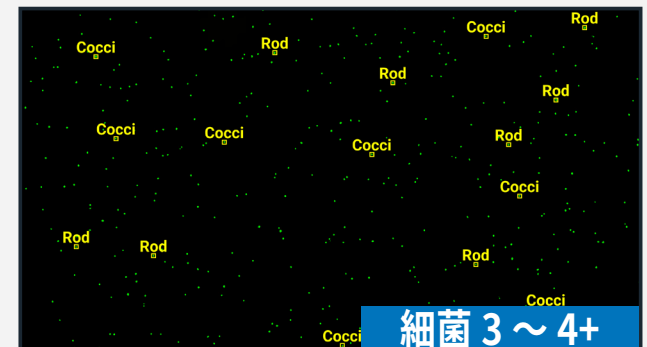
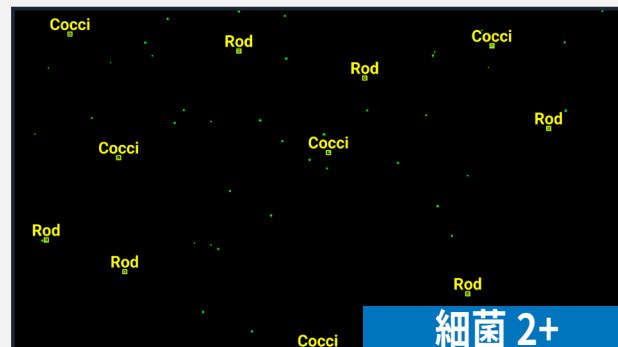


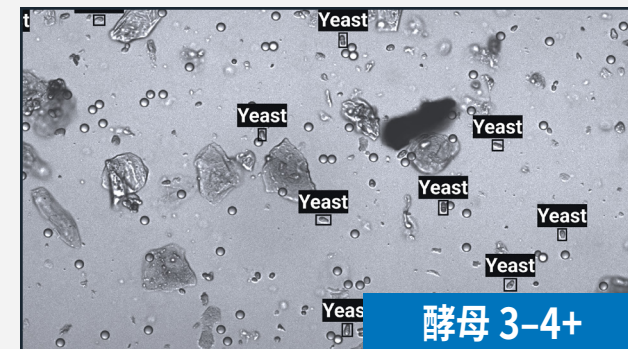
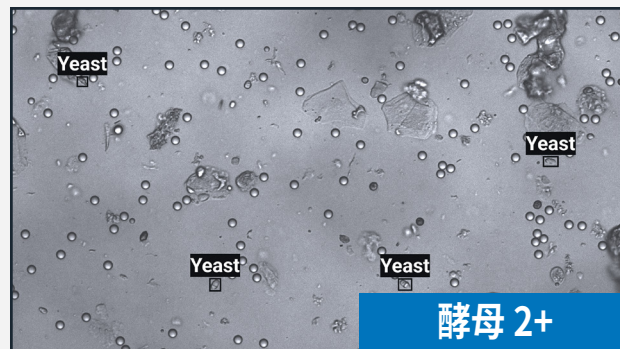
細胞量が不足していると、患者の本来の状態を反映した結果や画像が得られません。

注意：丸い物体（明視野では透明、合成画像では赤色）は、フォーカス・ビーズです。フォーカス・ビーズは、検査器が検体に焦点を合わせる助けとなり、適切な検体準備が行われたか（検体量が適切である、転倒混和されている、カートリッジへの分注が完全に行われているなど）の確認に役立ちます。

結果を画像で確認してください。

検査器が生成する画像や半定量結果は、提供された検体の品質と量によって大きく影響を受けます。そのため、結果の信頼性を高めるには、画像と照らし合わせて結果を確認することが大切です。以下の画像は、各結果に対して想定される細胞密度を示しています（ダニは動くため、ダニの画像は含まれていません）。





結果を解釈する際には、患者の臨床兆候と合わせて考慮してください。

IDEXX インビュー Dx 外耳細胞診による半定量評価 ¹	
結果	説明
0 (なし～極少数)	酵母や球菌・桿菌が認められない、または極少数しか認められません。
1+ (少数)	少数の酵母や球菌・桿菌が認められます。
2+ (中等度)	中等度の酵母または球菌・桿菌が認められます。
3-4+ (多数)	多数の酵母や球菌・桿菌が認められます。

¹ 評価は以下に基づいて調整されました：Budach, S.C. and Mueller, R.S. (2012), Reproducibility of a semiquantitative method to assess cutaneous cytology. *Veterinary Dermatology*, 23:426-e80.

重要：

- + 外耳細胞診の結果は、必ず臨床徴候や耳鏡の検査所見を踏まえて総合的に解釈してください。外耳細胞診だけで臨床的意義を判断することはできません。
- + 臨床的に正常な耳から少数の細菌や酵母が検出されても、多くの場合、問題となりません。耳道内は無菌ではないため、少数の酵母や細菌が常在微生物として検出されることがあります。
- + ただし、桿菌には注意が必要です。炎症や臨床症状を伴う場合、低～中等度の結果であっても重要な示唆となる場合があります。一方で、無症状の耳から少数の桿菌が検出された場合は、常在菌または一時的に付着しているだけの可能性があります。